

まちたんけん／あの 人に会いたいな

まちを探検する活動を大きく2つに分けて設定しました。「まちたんけん」では、自分達が知っているまちについて発表し、学校を中心とした大まかな位置関係がわかるように地図を使った活動を導入として設定しました。そして下巻最初の単元として、「計画」→「実行」→「ふり返し」→…といった学び方が明確にわかるような展開としました。計画の段階では、安全に関することも確認できるよう配慮し、「実行」の場面では、商店や施設、民家や農家、公園、身近な標識といった様々なものを、五感を通して、多くの発見があるように構成しました。

「あの人に会いたいな」では、まちで出会った人に注目させ、人との交流を企画します。「実行」の場面では、インタビューをしたり、感動して握手を求めたり、新たな疑問が生まれたりと自然に気付きの質が高まる様子を表現しました。地域を探検し、地域の人と交流することでより深く自分達の地域を知ることにつながり、自分達のまちを愛し大切にしようと考えられるよう構成しました。



下 p.27

わたしたちの 野さいばたけ

この単元は、上巻でのアサガオの栽培を経て、「前の経験が活かせる」「前とは違う」という学びの見通しのもと、野菜を育てる活動を取り上げました。野菜栽培にあたっては、はじめに育てる野菜を決める活動を設定し、苗屋さんに聞きに行ったりして決定します。そして、個々やグループでの栽培活動を進めていくうちに、様々な作業や問題に直面しながらそれを解決していく姿を示し、困難を乗り越えるたくましい心も育つように構成しました。また活動を保証する資料として、栽培方法に関わる「ものしりノート」をp.42、46-47、49、50、52に、また地域野菜や野菜の花についてp.43、53、59の「ものしり図かん」で取り上げています。

ふり返し場面では、野菜を収穫した喜びや野菜に対する感謝を多様な表現でまとめる中で、その成功体験やまた一つ成長した自分をふり返し、p.58からの「もっと そだてたいな」で、秋からも自信を持って野菜を育てていけるよう構成しました。



下 p.40

生きものと 友だち

この単元は、身近に見られる生き物を探し、捕まえ、飼育する構成としました。生き物を飼育するときは、どうすれば生き物が喜ぶか相手の立場で考えることを大切にしました。生き物がいた環境を思い出し、飼育場所を整えることは地域の自然を愛し、環境への見方・考え方につながります。また観察するときは、「くらべる」「たとえる」「数える」といった科学的な見方ができるように配慮しました。

最後に記録をもとにまとめる場面では、生き物のまとめだけではなく、それを通して成長した自分についてもまとめさせ、自分の成長をみとれるよう工夫しました。そして「これからも飼育続けるかどうか」を議論する場面を取り上げ、「いのち」に対する責任についても言及しました。



下 p.69

作ってあそぼううごくおもちゃ

この単元は、工作に少し苦手意識のある「そうたさん」がメインキャラクターとなります。おもちゃ作りの活動を通して「まっすぐ走らせたい」などの願いや改善する観点を明確にしなが、次のステップに進める展開とし、「計画」→「実行」→「ふり返し」→「改善」→「実行」→「ふり返し」といった、気付きが高められる学習のサイクルを明確に示しました。そして、改善されたそれぞれのおもちゃを持ち寄り、他の子どもと遊び、遊び方の工夫も含めて「もっと面白くしたい」という願いのもと、改良し、工夫し、さらには1年生を招待して遊ぶ場面を設けました。これらの活動を通して、動くおもちゃ作りが、理科や図画工画的な体験にとどまらず、試行錯誤を繰り返しながら集団の中で自分の学びを作り、今後の人生の中で大切なものとなりうるよう配慮しました。



下 p.85

わたしたんけん

この単元は、子ども自身の成長がわかるとともに、一緒に学び成長した友達や自分の成長を支えてくれた人達がいることがわかるよう構成しました。

まず、2年生での自分をふり返し評価する場面を設けました。次の自分の「すてき」を友達に発見してもらう活動では、気付かなかった自分の良い所を知り、新たな学年に向かって目標を立てられるよう構成しました。さらに1年生の頃や入学前の自分について調べていく中で、大人達に支えられていた自分に気付くよう構成しました。この活動については、子どもたちの多様な家庭状況に配慮した扱いとしました。そして最後にこれらをまとめたものが「わたしたんけん」になります。

単元末の「もっと かがやきたい」では、これからの自分について作文を書く活動を設定しました。

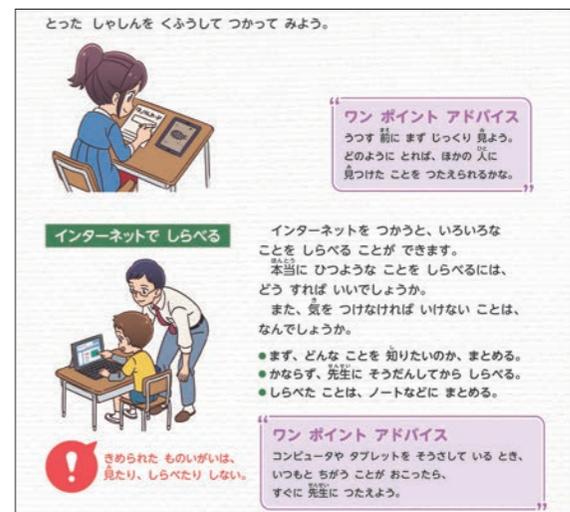


下 p.111

学び方図かん (上下巻)

上下巻とも、巻末に「学び方図かん」を設け、子どもたちが必要に応じて活動の参考にできるように配慮しました。はじめの「こんなときどうしよう」で実際の単元を例に挙げ、以下の学び方のヒントにつなげています。まず「見る」では、五感を使った調べ方に加え「比べる」「例える」ことも示しています。また「話す」だけでなく、「聞く」ことも協働的な学びの大切な要素であると考え、同列に示しています。また「考える」では、予想したり工夫したりすることについて示し、「書く」では、カードや作文の書き方を、さらに下巻では新聞にまとめたり、手紙の書き方についても示しています。

ICT 機器、特にタブレット端末については、上巻では静止画や動画で記録する道具として取り上げていますが、撮る前にじっくり見ること、どのように撮れば他人に見つけたことを伝えることができるか考えるよう示しました。下巻では、インターネットを使って調べる場合の注意点についても示しています。



下 p.125